

報告する。

【概要】8月6日AM, 歯学部長, 病院長と面談し, 歯学部, 講堂, 図書館, 病院, 講義室, 実習室を見学した。インプラント科では高級感ある個室で治療が行われ, 韓国では審美歯科に強い印象を受けた。PM, 100m程離れた医学部の中央手術室で, 歯科の嚢胞摘出術の見学をした。そこでは, 患者のCT画像を三次元構築した頭蓋模型が資料として使われていた。歓迎レセプションでは歯学部の先生や学生が30人ほど集まり, 私たち7名も, 自己紹介を含めプレゼンテーションした。8月7日AM, 基礎研究所を見学したが, 本学より少し狭く感じた。その後, Biomedical Engineeringの講義を受け, 人工組織の研究を学んだ。PM, 慶熙大学から車で40分ほどの慶熙大学江東病院を見学した。歯科を含む新しい大きな国際総合病院であった。そこで, 高齢者に対するインプラント治療の講義を受けた。8月8日AM, 顎顔面理学療法の見学と治療体験をした。PM, 学生ガイドでソウル市内を観光した。8月9日AM, マイクロ下歯内療法を, モニターを見ながら見学した。PM, 最新のコーンビームCTの講義および, ミニスクリーを固定源とする新しい矯正についての講義を受けた。

【結語】今回, 国際交流で, 韓国の審美意識に強い印象を受けた。慶熙大学は韓国で優れた歯科大学であるが, 本学の教育, 研究, 施設, 設備, 臨床技術は劣っていないことも実感できた。主なコミュニケーションとして使われたのは英語であり, 英語の大切さを改めて実感した。また, 言葉や文化, 国の違いさえあれ, 共通の歯学を学んでいるということが実感でき, 今学んでいる事がとても大切だと痛感した。

11) I.C.T. Iにおける学生プレゼンテーションの傾向

○松山 仁昭, 古山 昭¹, 宇佐美晶信²
 (奥羽大・歯・成長発育歯学,
 口腔機能分子生物¹, 歯・生体構造²)

【目的】I.C.T. Iは歯学部第1学年の科目として, コンピュータの基礎教育を行っている。学習項目の1つであるプレゼンテーションは, 学生の

積極的に自己表現しようとする意欲が目立ち, 優秀な作品が多く, 発表内容に工夫があり, 効果的な学習が行われている。学生により制作されたスライドと実際の発表における傾向を分析し, 学生のプレゼンテーションに対する習熟度を明らかにする。

【方法】学生が授業で課題として制作し, 発表を行ったプレゼンテーションスライド111名分を資料とした。課題は, 各自のスライド制作時に負荷がかかりにくい「自分の好きなこと(趣味)について」とし, 発表時間は3~5分とした。スライド制作方法はPowerPoint2010の基本操作とスライド作成, スライドデザイン, スライド編集, オブジェクト応用, アニメーション応用, プレゼンテーションの実際について, 講義と指導を行った。各スライドに学習した手法が適応されているかを調べ, 学生の習熟度を求めた。また, プレゼンテーションの内容についても調査した。

【結果】扉の設置, スライドデザインの使用, 箇条書きの使用については100%の学生がスライドに適用していた。さらに画像の使用は98%, アニメーション(オブジェクト)は88%, アニメーション(画面切替)は52%と適用度が高かった。効果音の使用は21%, 動画の使用は13%, スマートアートの使用は9%, クリップアートの使用は4%と適応度は少ない傾向であった。制作されたスライドは平均9.3枚であった。プレゼンテーションの内容は多様で, 偏りはなかった。

【まとめ】学生は学習したスライド手法を各自で応用してスライド制作を行っていた。ファイルのリンクや, 複雑な設定をとまなう手法は使用頻度が低い。授業中に強調した手法は積極的に取り入れていた。まとめやすい課題を選択したことにより, プレゼンテーション技術に集中することができ, 効果的な学習が行えたと考えられる。プレゼンテーションの内容は多様であり, 発表時には学生の熱心な主張が表現できていた。